

第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：自転車交通安全	
日付：11 月 1 日（土）曜日、セッション時間：13：15～14：45	
司会者名（所属）：山中英生（徳島大学）	
討 議 内 容	セッション全体： 自転車と歩行者の錯綜現象や、自転車と自動車の安全性評価について、その目的を明確に議論すべきである。 自転車が手段としてどのように位置づけられるかを明確にした上で共有空間の評価の視点を考えることが必要。でないと、自転車の危険性を危惧するあまり極端に利用できない空間整備につながったり、逆に自転車が歩行者をうまくすり抜ける行動を是認するような視点になりかねない。 設計上の視点においても、自転車の危険性を極端にとると、円滑性を損ねる設計となり、結果的に自転車が意図通りに走行しない空間となることもあり、バランスが重要である。
	（92）松崎純 北海道大学大学院工学研究科：自転車・歩行者混在交通における錯綜時の危険度評価に関する研究 歩行者と自転車の長時間に錯綜現象の観測をもとに、錯綜を 4 段階の危険度に区分し、そのレベル判別を速度や交通量により試みた論文で、判定者により異なる傾向がある錯綜現象のカウント、選別方法の妥当性確保。非説明指標として、回避から衝突までの危険度だけでなく、錯綜が生じなかったすれ違い、追い越しを加えるべきではないか。設定した占有空間が妥当か。などについて質疑が行われた。
	（93）長谷部知行 日本大学大学院理工学研究科土木工学専攻：歩道上を走行する自転車の危険度評価 歩行者と自転車が対面で接近した際に危険と感じる距離と速度の関係を実験より計測するとともに、実際の街路での回避挙動を分析し、2 変量正規分布関数を適用して、歩行者の 90% が安全と感じる回避開始距離が 5.42m であるという結論を提案している。回避開始距離をどのような目的で使用するのか？ 歩道等におけるルールである徐行との整合性が問題、追い越しと対向を区別すべき、距離だけでなく回避幅の考慮が必要、「危険を感じる」というリスクにはよけられないという意味と、相手に危険・不信を感じる意味があり、違いを明確にすべきなどの質疑が行われた。参加者からは、回避開始距離の利用として、交差点での専用空間から混在区間への誘導距離、共有空間の限界高越密度への応用案が提案された。
	（94）武田圭介 国土交通省国土技術政策総合研究所：自転車事故発生状況の分析と事故防止のための設計方法の検討 自転車道、自転車レーンを導入した際の大交差点、小交差点の設計方法についての試案が示された。試案の公表、オーソライズの時期、自転車専用信号の導入可能性、横断帯の有無による評価、道路設計以外の施策（時差信号制御、バイクポケット、左折車線規制）の考慮、交差点と単路部の設計手順の課題などについて質疑が行われた。